

SHIDAX
Please!



第**3**期 事業報告書
BUSINESS REPORT
平成15年4月1日～平成16年3月31日

シダックス株式会社
証券コード：4837



目次

ごあいさつ	1
シダックスグループの事業領域	2
経営戦略	3-4
シダックスのグループ概況	5-6
セグメント別事業概況	
エスロジックス事業	7
コントラクトフードサービス事業	8
メディカルフードサービス事業	9
レストランカラオケ事業	10
連結財務諸表	11-12
個別財務諸表	13
会社情報・株式情報	14

TO OUR SHAREHOLDERS

ごあいさつ



代表取締役社長 志太 勤一

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成15年4月1日から平成16年3月31日に至る当社の第3期事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

当期の利益配当につきましては、1株につき1,500円とさせていただきます。

わが国の経済は、企業収益が穏やかに改善するとともに、民間の設備投資にやや増加の傾向がみられるなど、明るい兆しがあるものの、個人消費は、依然として力強さを欠き、停滞基調のなかで推移しました。外食産業における価格競争の激化や、コンビニエンスストアなどの弁当販売が伸びる一方、メディカル分野の食事提供には、栄養学的な裏づけなどの専門性が求められております。

健康で快適な生活を願う人々の声、豊かさの価値を求める社会ニーズに対し、当社は「食」を通じて安心で安全な、高い品質のサービスを提供し、「健康を創る」を企業理念にかかげ、それぞれの分野での専門性を高めつつ、事業を拡大して参りました。

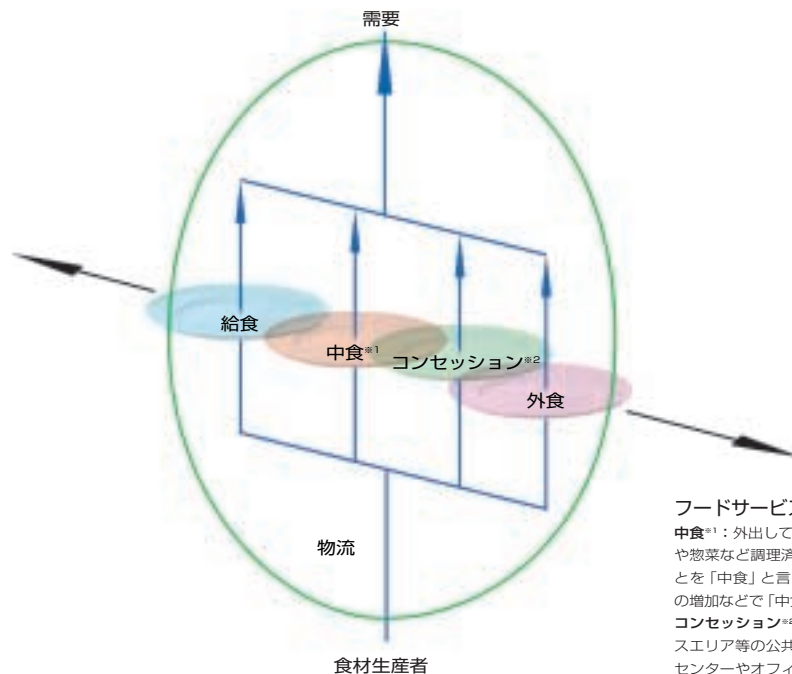
今後とも給食事業およびレストランカラオケ事業のリーディングカンパニーとして、激しく変化する経営環境を迅速にとらえ、経営資源を最適に配置することで、さらなる企業価値向上を目指していく所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年6月

代表取締役社長 志太 勤一

シダックスグループの事業領域



フードサービスインフラ概略図

中食^{#1}：外出して食事をする「外食」に対し、弁当や惣菜など調理済み食品を持ち帰って食事することを「中食」と言います。働く女性や単身世帯の増加などで「中食」市場は急成長しています。

コンセッション^{#2}：駅や空港、高速道路のサービスエリア等の公共施設、デパート・ショッピングセンターやオフィス集積ビル内の食堂街など人が集まりやすい場所の売店やレストランを「コンセッション」と言います。

「食のリノベーション」への挑戦

私たち、シダックスグループの事業領域の中核は、シダックスフードサービス(株)が展開する集団給食分野とシダックス・コミュニティ(株)が展開するレストランカラオケ（外食）分野がメインでした。今後は「コンセッション分野」、弁当惣菜ビジネスを展開する「中食分野」の事業領域の成長を図って参ります。外食・中食・給食・コンセッションという市場と、その市場に対する食材物流に至る分野を事業領域とするシダックスグループの「総合フードビジネスマネジメント」構想はすでに始動しています。

経営戦略

「安心と安全、そして楽しさ」を広げるために 当社は拡大戦略を展開します

世の中全体に縮小均衡の波が押し寄せるなか、当社グループは、拡大戦略を展開しています。売上規模を拡大させることが目的ではなく、規模を拡大させることで、コスト競争力とサービスの付加価値をより高めることができるからです。

「安心と安全、そして楽しさ」をもっと社会に広げるために「健康を創る」を核とした挑戦が続きます。

● シダックスブランドの確立

研究開発体制の充実や広告宣伝活動の実施などにより、健全で明るく快適なブランドイメージを形成します。



ブランディング戦略とは、当社グループの高付加価値サービスを、お客様に統一したイメージ（信頼、安心、満足など）で発信し、それを通してお客様を引きつけ、良好な関係構築を図ろうとするものです。

すでにレストランカラオケ事業では、一定のブランドイメージが定着しているものの、フードサービス企業としての確固たるブランド力はさらに浸透させなければなりません。

ブランド力の浸透には長期の取り組みが不可欠です。そのためM&Aやアライアンスなど即効性のあるブランドイメージの獲得にも力を注いでいきます。

ブランドイメージを確立するには、スケールメリットの追求だけでなく、変化と多様化の時代に対応した高品質のサービス

が不可欠です。グループの全国的な店舗網を活用するには、店舗内にレシピ、オペレーションをマニュアル化したブランドコーナーを設置し、チェーン化させていきたいと考えています。

渋谷駅周辺の繁華街に展開するレストランなどの店舗は、高感度の情報発信拠点としての価値も高く、ブランド力の獲得にも有効です。

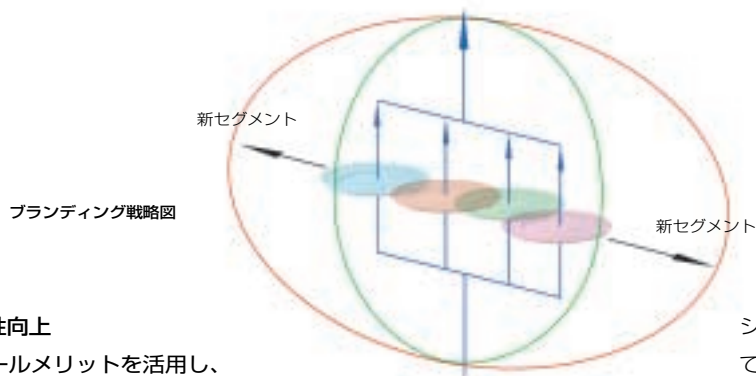
● 経営効率の追求

経営戦略機能を強化し、間接部門の統合・再組織化を実行します。

当社は、事業子会社の経営効率の向上を目的として、統一的な経営戦略を策定し、実行してきました。これまでに人材、資産、資金、情報など重要な経営資源を一元管理するため、組織の再編成を行い本社に管理部門を統合しました。また、経営資源の最適配置による効率的な事業運営を実現するため、人材や資金等の再配分についても基本戦略を定め、事業子会社に対し経営指導を行っています。

当事業年度においては、今後の事業拡大に備え、営業店の事業運営の効率化および管理の徹底を追求するとともに、店舗敷金の流動化や外貨資産の円転など、資金調達手段を多様化して財務基盤の整備を行い、資産収益性の向上に努めてきました。

なお、今後とも、より効率的なグループ経営を進めるため、組織の統合再編を進める計画です。



● グループの生産性向上

グループのスケールメリットを活用し、食材の一括調達物流システムを拡充します。

食材の一括仕入れシステムを活用し、グループのスケールメリットによる仕入れコストの低減効果を追求します。当システムを軸とした共同仕入れをアライアンス戦略の一環として事業拡大を図ります。

食の安全性が社会的にも求められているなか、業務用食材についてのトレーサビリティ（食の生産履歴）への対応を進めています。また、加工品についても原料の生産過程での農業使用状況や、加工工場の衛生管理体制を食材メーカーの協力のもと、できる限り調査を行ったうえ、仕入れ商品を決定しています。このほか、消耗品の一括受発注システムの運営も行っています。

当社は平成14年2月にISO14001を、平成16年3月にISO9001の認証を取得しました。また現在、安全な食の提供を目的として工程管理における「HACCP」を導入しています。

● M&Aとアライアンス

「食」をコアとした既存事業とのシナジー効果を図るため、M&Aをはじめ提携・アライアンスを進めます。

当社グループは中長期的な成長を目指すため、既存事業との

シナジー効果の期待できる分野においては、M&Aを積極活用したスピーディーな事業領域の拡大を行っています。

M&Aは、投資資金の回収見込み期間や、投資先が有する人材、顧客、立地条件、オペレーション等も含め総合的に勘案して慎重に選別しています。当然ながら、食に関するあらゆる事業をグループ内部に取り込むという考えはありません。

提携・アライアンスといった手段も重要な選択肢です。外部の資源を効率よく活用できれば、内部に保有する必要はないと考えるからです。特にリスクの大きいインフラ資産などは極力保有せず、リスクの最小化に努め、資産効率の向上を基本方針としています。

なお、当期は（株）東急百貨店の100%子会社であったシダックスレストランマネジメント（株）（旧（株）レストランモンテローザ）及びオムロン（株）の100%子会社であったシダックスデリカクリエイティブ（株）（旧オムロンデリカクリエイティブ（株））の全株式を取得しました。



当社と当社グループは、「質の高い健康創造サービス」を追求するためのアライアンスにこれからも積極的に取り組み、「食」をコアビジネスとしてより一層の発展を目指して参ります。

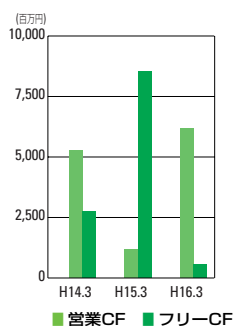
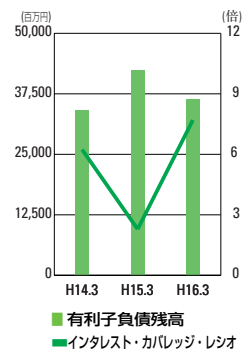
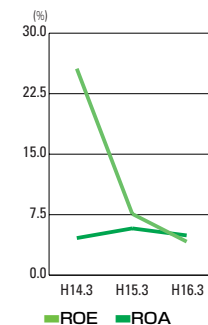
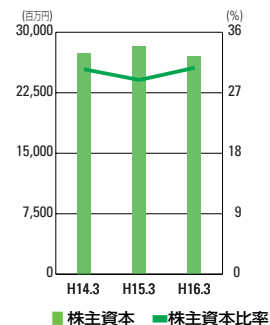
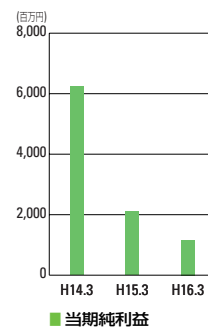
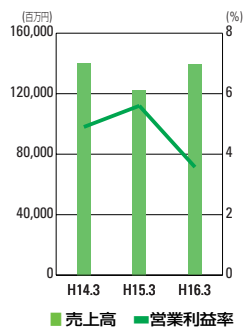
営業の概況

● 営業の経過及び成果

シダックスグループ経営効率の向上を目的として、経営戦略を策定し、実行して参りました。重要な経営資源である人材、資産、資金、情報を一元管理するために、管理部門を統合し組織の再編成を行いました。経営資源の最適配置による効率的な事業運営を実現するために、人材や資金等の再配分についても戦略を策定し、当社グループの経営方針のもと、事業子会社に対し経営指導を行って参りました。

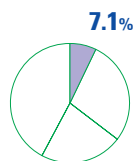
当期においては、グループ全体のブランド力の確立のため、業種、業態などのカテゴリーコンセプトを明確にし、各ブランドの確立に努めました。平成15年4月2日付け、シダックスレストランマネジメント(株) (旧(株)レストランモンテローザ)、平成15年10月1日付け、シダックスデリカクリエイツ(株) (旧オムロンデリカクリエイツ(株))の株式を取得しました。シダックスレストランマネジメント(株)においては、ハイクオリティレストランを運営しており、お客様のニーズを直接吸い上げることで、食事のクオリティの追求と、そのメニュー、レシピ、オペレーションを他の営業店に広げることによる、売上向上とコスト低減を行って参ります。また、シダックスデリカクリエイツ(株)では、自らが運営するセントラルキッチンを利用し、地方自治体より公立中学校の給食事業を受託しており、今後全国においてマーケット拡大が期待される、公立小中学校分野での拡大を期待しております。その他の既存店舗においても、カテゴリーごとにオペレーションの専門性を追求して参りました。また、財務面においても、店舗差入保証金の返還請求権の流動化や外貨資産の円転など、資金調達手段を多様化し、財務基盤の整備を行い、資産収益性の向上に努めました。なお、平成16年3月31日付け、シダックス厚生年金基金が解散し、当社の退職金制度は、確定拠出型年金制度及びいわゆる前払退職金制度に移行したため、退職給付制度終了益2,999百万円を特別利益に計上しております。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は140,909百万円(前期比15.0%増)、経常利益は4,436百万円(前期比30.5%減)、当期純利益は1,137百万円(前期比46.1%減)となりました。



グループ概況

エスロジックス事業

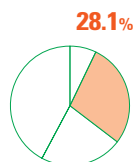


世界各地から厳選された食材及び消耗品を一括発注・配送を可能にする大量仕入れによるスケールメリットを強みとし、グループ内のみならず外部への食材・消耗品の仕入販売事業を展開しています。

エスロジックス事業

- エス・ロジックス株式会社
食材販売業務
- シダックスエンジニアリング株式会社
消耗品販売業務等

コントラクトフードサービス事業

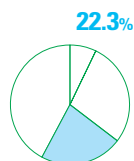


企業（オフィス、工場、保養施設）、学校、官庁の食堂などを中心に、高品質の給食サービスを提供しています。また、専門レストランの本格展開と同時に、専門レストランに匹敵するコントラクトフードサービスのクオリティ向上に努めています。

給食事業

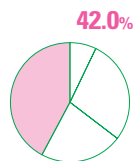
- シダックスフードサービス株式会社
- シダックスレストランマネジメント株式会社
- シダックスフードサービス北海道株式会社
- シダックスデリカクリエイツ株式会社
給食の受託運営業務等

メディカルフードサービス事業



病院（患者食、職員食堂）をはじめ老人福祉施設、養護老人ホーム、ケアハウス、あるいは在宅高齢者の方々に栄養バランスだけでなく、「おいしさ」も楽しんでいただける高付加価値の食事サービスを追求しています。

レストランカラオケ事業



カラオケと食を融合したレストランカラオケを全国で展開しています。また、ファミリーレストラン並みの食事サービスに加え、地域密着型のカルチャースクール、福祉活動支援、各種イベントなども展開しています。

レストランカラオケ事業

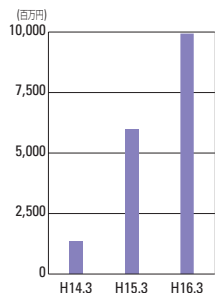
- シダックス・コミュニティー株式会社
レストランカラオケ業務等

● 当期の概況

エス・ロジックス(株)では、事業提携先とともに、物流網を全国に拡大いたしました。食材の一括仕入れシステムを利用してスケールメリットによる当社グループとしての仕入コストの低減効果を追求するとともに当システムを軸とした共同仕入れをアライアンス戦略の一環として、事業を拡大して参りました。食の安全性が社会的にも求められているなか、業務用食材についてのトレーサビリティなどの対応を進めております。加工品についても原料の生産過程での農業使用状況や、加工工場の衛生管理体制を食材メーカーの協力のもと、できる限りの調査を行った上、仕入商品を決定しております。また、当連結会計年度より連結対象としたシダックスエンジニアリング(株)では、消耗品の一括受発注システムの運営による販売、厨房設計および厨房の販売事業を行っております。今期より全国の当社グループの営業店舗に本格導入いたしました。

クオリティコントロールとともに、大量仕入れによる価額低減を実現させた結果、当社グループでのエスロジックス事業による仕入高が増加しました。

以上の結果、当期の売上高は9,987百万円（前期比67.3%増）となりました。



エスロジックス事業売上高



● 次期の見通し

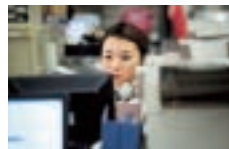
全国にまたがる事業用食材の一括発注、一元物流システムを活用して、クオリティを統一し、安全性が高い食材を、給食事業、レストランカラオケ事業、レストランマネジメント事業の全店にも食材を提供して参ります。メディカルフードサービス事業の拡大に合わせてメディカル食材の開発を行い、営業体制を強化します。

今後、供給の拡大に合わせて事業本部で進めていくメニューの標準化に合わせた食材の統一、メーカーの絞込みによるスケールメリットを追求し仕入コスト削減を進めます。

またアライアンス戦略の一環として、当システムを軸とした同業他社、外食レストランへの食材販売事業を拡大していきます。

事業所給食事業および外食産業に使用する消耗品の販売および厨房設備の設計、販売に関しては一括受発注システムを整備し、取扱高を増やしながら規格を統一することにより仕入コスト削減を進めます。

上記施策により、売上高としては当社グループによる38,552百万円及び外販13,063百万円の計51,615百万円を見込んでおります。



TOPICS

「第25回フード・ケータリングショー」に出展

少子化・高齢化などをはじめとする社会構造の変化により、さらなる市場マーケットの変化が予想される21世紀。シダックスグループは、厳しい品質管理で、法規制にあった食の安全に努めています。また、給食・ケータリング事業者等が集う

「フード・ケータリングショー」に参加。当グループの最新の取り組みを発表するとともに、同業社とも積極的に交流し、トレーサビリティシステムの導入等に取り組み、サービスの向上に努めています。



毎年開催されるフード・ケータリングショーには、グループ各社が参加しております。

コントラクトフードサービス事業

● 当期の概況

産業給食の分野は、景気低迷の影響を受け、お得意先の事業再編成に伴う事業所の統廃合等による受託施設の減少、経営合理化に伴う従業員の減少、福利厚生予算の見直しに伴う契約料金の値下げ要請等の動きが依然として続いております。

このような状況のもと、持株会社の指導により、規模の大きな事業所向けには、お客様ニーズを明確に捉え専門性を高めたレストランの提案など、お客様満足度の高い営業拡大に努めて参りました。

また、公共施設内のレストラン等も民間への委託が進んでおります。この分野は、学校等を含め、今後本格的に拡大するものと考えております。

以上の結果、当期の売上高は、39,632百万円（前期比2.9%増）となりました。

● 次期の見通し

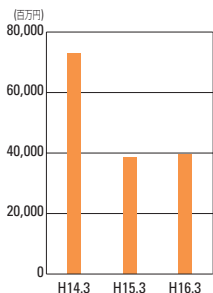
景気低迷、金融機関の業務縮小に伴う影響もあり、次期も引き続き厳しい経営環境が続くものと考えておりますが、既存店売上高はほぼ予定通りに推移するものと考えております。お得意先との契約形態は、管理費制から単価制への移行が進んでおり、管理費制給食

事業と単価制給食事業を担当するセクションを明確に分けて、事業所給食単価制のスタンダードオペレーションシステムを確立し、お客様満足度のアップ、収益向上を図り解約防止に努め、新規営業開発提案にも活用して参ります。新規店の開発については、新たに設けた営業開発統括部のもとでマーケットのセグメント化を推進し、地域、施設に見合った提案型営業を実践し、学校、ゴルフ場、温浴施設、保育所などの他、企業及び公共施設の受託を進めて参ります。

またシダックスレストランマネジメント㈱は、東急百貨店内の社員給食部門をシダックスフードサービス㈱に営業を譲渡し、レストラン運営に専門特化し、集客性の高い渋谷という立地を生かしたメニューの開発を行いつつ、そのレストランノウハウをグループ内で活用するとともに、より専門性の高いブランドを確立していきます。

シダックスデリカクリエイティブ㈱は、地方で独立して行っていた事業所給食部門をシダックスフードサービス㈱に営業を譲渡し、セントラルキッチン方式の給食事業を推進していきます。

上記施策により売上高37,043百万円、レストランマネジメント分1,891百万円及びデリカクリエイティブ分5,73百万円を見込んでおります。



コントラクト
フードサービス事業売上高



TOPICS

シダックスグループの事業拡大

平成15年4月、㈱東急百貨店より買収した㈱レストランモンテローザを、同年10月シダックスレストランマネジメント㈱に社名変更いたしました。レストラン事業を集約し、これまで培ってきたノウハウを最大限に活用。また、素材や調理などの

安全面を意識した「創作西洋料理健康創造レストラン」の事業を通して、有機栽培、スローフード、ホスピタリティー、有名ブランドとのコラボレーションなどを展開。確固たるブランドの確立に努めて参ります。



シダックスレストランマネジメント㈱の業態転換第1号のシャトーT・S

メディカルフードサービス事業

● 当期の概況

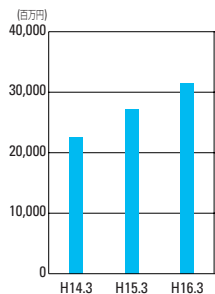
当期については既存店の運営レベルの強化を図るとともに、新規店の開拓を強化し、195個所の新規店を受託しました。

病院等の施設における民間委託は定着し、国公立施設も民間への委託が進みつつあります。当期においては、国立岐阜大学医学部附属病院や、敬愛会中頭病院等、大型病院よりの受託など、大規模総合病院よりの受託が拡大しております。当社が受託している大型病院施設での運営状況の評価がされているものと考えております。

一方、老人健康福祉施設等が多く開設されております。当社は施設のコンセプト創りから携わり、ご入所の方がよりご満足いただけるように努めて参りました。

しかしながら、受託拡大のための営業開発員を大幅に増加させたことや、新規店舗の増加に対応するための従業員教育の強化と備品設備の投資の増加のため、収益性は低下しました。今後、既存店舗が相対的に増加することから収益性は改善するものと考えております。

以上の結果、当期の売上高は、31,524百万円（前期比16.2%増）となりました。



メディカル
フードサービス事業売上高



TOPICS

メディカルフードサービス事業分野のさらなる拡充

当社は、病院や福祉施設におけるメディカルフードサービス事業分野で、高齢者向けの食材の飛躍的な伸びに着目。飲み下しや噛む力が弱くなった高齢者向けの食材として、「CARNAX（カルナックス）」ブランドを立上げました。水分補給用食品と

して、緑茶ゼリーの粉末を食品メーカーのマルハチ村松と共同で、商品化。当商品は、高齢者の気管に誤って流れ込むのを防ぎ、介助中に溶け出す心配もなく、多くの高齢者を介護する施設でも、安心してお使いいただけます。



CARNAXブランドの第1号商品<quick緑茶ゼリー>は、嚥下困難者向け水分補給ゼリーです。

レストランカラオケ事業

● 当期の概況

カラオケ業界におきましては、個人消費が低迷するなか、中小の店舗が淘汰され店舗大型化、競争激化の傾向が見られます。

このような状況のなかで、当社はファミリーレストラン並みの食事の提供、郊外ロードサイドの50ルーム大型店舗、都心型のさらに大型の店舗にて、「きれい、おいしい、うれしい」店作りという店舗運営方針のもと、積極的な出店を行いながら地域一番店作りを目指して参りました。

新規出店につきましては、北海道地区1店舗、東北地区1店舗、関東地区6店舗、中部地区8店舗、近畿地区4店舗、中国地区3店舗、四国地区3店舗、沖縄を含む九州地区6店舗の合計32店舗をオープンし、関東地区で1店舗を閉鎖した結果、平成16年3月31日現在281店舗となりました。

営業面におきましては、さまざまなキャンペーンを展開し、地域密着の販促活動強化、店舗クレンリネスの徹底を継続した結果、お客様の消費単価は前年既存店比100.4%となり、お客様の数は前年既存店比102.4%となりました。

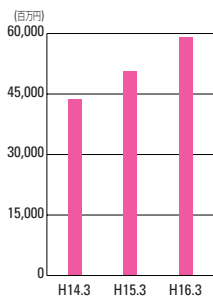
以上の結果、当期の売上高は59,203百万円（前期比16.3%増）となりました。

● 次期の見通し

より質の高いサービスを価値感のある価格にて提供されたいというお客様のニーズに的確に応えることにより、当社のレストランカラオケは着実にお客様の信頼を得ております。カラオケ人口が成熟期を迎えるなか、カラオケ施設は大型化し、レベルの高いサービスが求められております。厳しい経営環境は継続するものの、今後はランチメニューの強化、高級創作メニューの開発をすすめ、更に飲食提供レベルをアップさせて参ります。また、店舗、設備のリニューアル、機器の更新を進め、サービスの向上を図るとともに、従来よりの地域販促、イベント活動を徹底しリピートのお客様、常連のお客様の獲得を進めて参ります。渋谷地区最大の130室店舗含む都心型、郊外型合

わせて30店を新規出店する予定であります。

上記施策により、売上高67,756百万円を見込んでおります。



レストラン
カラオケ事業売上高



TOPICS

シダックス本社、新宿から渋谷へ移転

新宿から渋谷へ本社を移転いたしました。今年7月25日には、同ビル内に、シダックスグループのアンテナショップをオープン。感度の高い消費者のニーズをいち早く取り入れ、付加価値の高い商品提供とサービス

開発を行ってまいります。また、食を通じ、「21世紀の生活者への健康と幸せを創る感動のサービスの提供」を具現化し、当社に共感をいただける企業・人材の交流を進めています。



平成16年6月に移転しました本社ビル
(イメージ図)

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

連結財務諸表

連結貸借対照表

科 目	(単位：百万円)	
	当期 平成16年3月期	前期 平成15年3月期
(資産の部)		
流動資産	28,507	38,442
現金及び預金	14,906	24,615
受取手形及び売掛金	8,654	7,897
たな卸資産	1,063	1,065
繰延税金資産	961	819
その他	3,018	4,074
貸倒引当金	△ 96	△ 30
固定資産	59,184	59,114
有形固定資産	37,345	33,039
建物及び構築物	33,623	29,749
土地	1,187	1,166
その他	2,535	2,123
無形固定資産	958	1,112
投資その他の資産	20,879	24,962
敷金及び保証金	11,634	14,522
繰延税金資産	3,162	4,281
その他	8,576	8,326
貸倒引当金	△ 2,493	△ 2,167
資産合計	87,691	97,557

科 目	(単位：百万円)	
	当期 平成16年3月期	前期 平成15年3月期
(負債の部)		
流動負債	35,663	35,399
支払手形及び買掛金	8,706	7,192
短期借入金	2,196	1,988
一年内返済予定の長期借入金	9,987	12,294
未払金	7,015	5,933
賞与引当金	1,589	1,439
その他	6,168	6,551
固定負債	25,092	33,945
長期借入金	22,192	24,660
退職給付引当金	—	4,515
役員退職慰労引当金	434	399
連結調整勘定	1,322	2,031
繰延税金負債	90	—
その他	1,053	2,339
負債合計	60,756	69,345
(資本の部)		
資本金	8,930	8,930
資本剰余金	7,847	7,847
利益剰余金	12,934	12,337
その他有価証券評価差額金	132	7
自己株式	△ 2,909	△ 911
資本合計	26,935	28,211
負債及び資本合計	87,691	97,557

連結損益計算書

科 目	(単位：百万円)	
	当期 平成16年3月期	前期 平成15年3月期
売上高	140,909	122,563
売上原価	122,816	108,679
売上総利益	18,092	13,883
販売費及び一般管理費	13,158	6,971
営業利益	4,934	6,911
営業外収益	334	353
受取利息	38	69
連結調整勘定償却額	130	112
その他	165	171
営業外費用	833	882
支払利息	804	795
その他	29	85
経常利益	4,436	6,383
特別利益	3,091	269
退職給付制度終了益	2,999	—
その他	92	269
特別損失	2,638	2,050
為替差損	1,373	1,531
その他	1,264	519
税金等調整前当期純利益	4,889	4,602
法人税、住民税及び事業税	2,770	2,936
法人税等調整額	981	△ 443
当期純利益	1,137	2,109

連結剰余金計算書

科 目	(単位：百万円)	
	当期 平成16年3月期	前期 平成15年3月期
資本剰余金期首残高	7,847	
資本準備金期首残高		7,847
資本剰余金期末残高	7,847	7,847
利益剰余金期首残高	12,337	
連結剰余金期首残高		10,680
利益剰余金増加高	1,204	2,109
当期純利益	1,137	2,109
連結子会社増加に伴う利益剰余金増加高	67	—
利益剰余金減少高	607	452
配当金	512	357
役員賞与	95	95
(うち監査役分)	(3)	(2)
利益剰余金期末残高	12,934	12,337

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	(単位：百万円)	
	当期 平成16年3月期	前期 平成15年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,183	1,773
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,622	6,764
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,611	7,241
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,341	△ 1,471
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△ 9,391	14,307
現金及び現金同等物の期首残高	23,923	9,615
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	105	—
現金及び現金同等物の期末残高	14,636	23,923

NON-CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

個別財務諸表

個別貸借対照表

科 目	(単位：百万円)	
	当期 平成16年3月期	前期 平成15年3月期
(資産の部)		
流動資産	19,546	19,901
現金及び預金	5,928	12,665
売掛金	70	70
短期貸付金	12,985	5,474
繰延税金資産	42	35
その他	519	1,655
固定資産	28,680	22,730
有形固定資産	757	729
建物	84	76
土地	511	511
その他	161	142
無形固定資産	729	881
ソフトウェア	708	822
その他	20	58
投資その他の資産	27,194	21,118
関係会社株式	15,190	13,727
関係会社長期貸付金	10,644	6,520
繰延税金資産	—	686
その他	1,359	185
資産合計	48,226	42,631

個別損益計算書

科 目	(単位：百万円)	
	当期 平成16年3月期	前期 平成15年3月期
売上高	6,780	9,955
販売費及び一般管理費	4,294	3,468
営業利益	2,486	6,486
営業外収益	446	133
受取利息	361	30
その他	85	102
営業外費用	244	78
支払利息	242	48
その他	1	30
経常利益	2,689	6,541
特別利益	1,918	—
退職給付制度終了益	1,918	—
特別損失	990	—
為替差損	750	—
その他	239	—
税引前当期純利益	3,617	6,541
法人税、住民税及び事業税	317	31
法人税等調整額	768	△ 233
当期純利益	2,531	6,743
前期繰越利益	8,506	2,351
当期末処分利益	11,038	9,095

科 目	(単位：百万円)	
	当期 平成16年3月期	前期 平成15年3月期
(負債の部)		
流動負債	5,319	2,277
短期借入金	1,300	—
一年内返済予定の長期借入金	3,413	1,446
賞与引当金	92	87
その他	513	743
固定負債	10,667	8,061
長期借入金	10,535	6,428
退職給付引当金	—	1,611
役員退職給付引当金	42	21
繰延税金負債	89	—
負債合計	15,987	10,339
(資本の部)		
資本金	8,930	8,930
資本剰余金	15,178	15,178
資本準備金	15,178	15,178
利益剰余金	11,038	9,095
当期末処分利益	11,038	9,095
(うち当期純利益)	(2,531)	(6,743)
その他有価証券評価差額金	1	—
自己株式	△ 2,909	△ 911
資本合計	32,238	32,292
負債及び資本合計	48,226	42,631

利益処分

科 目	(単位：百万円)	
	当期	前期
当期末処分利益	11,038	9,095
利益処分量	561	588
配当金	476	512
役員賞与金	84	76
(うち監査役賞与金)	(1)	(0)
次期繰越利益	10,477	8,506

CORPORATE DATA

会社情報

会社の概要 (平成16年3月31日現在)

商号	シダックス株式会社
英文商号	SHIDAX CORPORATION
設立年月日	平成13年4月2日
資本金	8,930百万円
従業員数	3,430名
本店所在地	東京都調布市調布ヶ丘三丁目6番地3
本社事業所	東京都新宿区西新宿三丁目7番1号 新宿パークタワー36階 (平成16年6月1日をもって、〒150-0041東京都渋谷区 神南一丁目12番13号 渋谷シダックスビルに移転いたしました。)

役員 (平成16年4月1日現在)

代表取締役会長	志太 勤	監査役(常勤)	井戸 昇
代表取締役社長	志太勤一	監査役	田中義一
代表取締役副社長	若松正雄	監査役	重泉良徳
専務取締役	遠山秀徳	監査役	佐藤末也
常務取締役	藤田一郎	監査役	高橋忠雄
取締役	渡邊一民		
取締役	小柴宏美		
取締役	大津 宏		
取締役	岸川和彦		
取締役	荻野 裕		

(注)1. 監査役重泉良徳氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

2. 当期中の取締役および監査役の異動は、次のとおりであります。

(1)就任

平成15年6月27日開催の第2回定時株主総会において、遠山秀徳、渡邊一民、小柴宏美、大津 宏、岸川和彦、荻野 裕の6氏は取締役に、佐藤末也、高橋忠雄の両氏は監査役に新たに選任され、就任いたしました。

(2)役職の異動

取締役遠山秀徳氏は、平成15年6月27日開催の取締役会において常務取締役に、また平成16年3月23日開催の取締役会において専務取締役に、新たに選任され、就任いたしました。

STOCK INFORMATION

株式情報

株式の状況 (平成16年3月31日現在)

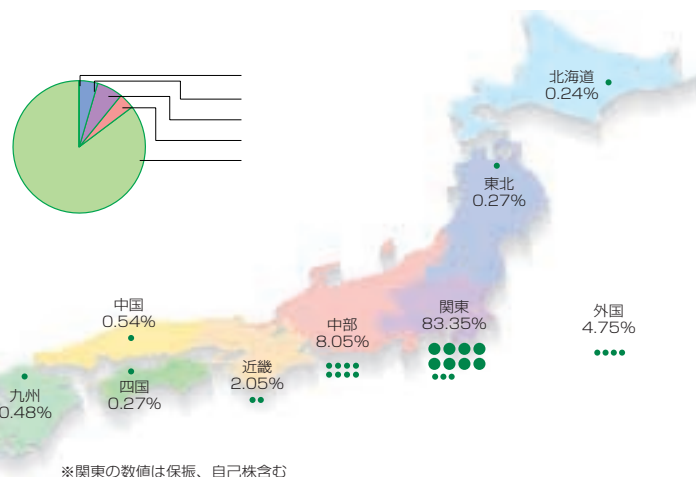
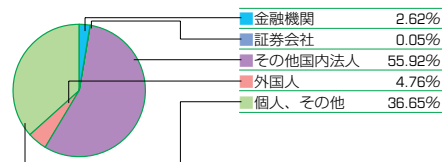
会社が発行する株式の総数	1,400,000株
発行済株式の総数	357,214.62株
株主数	9,092名

大株主 (平成16年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
志太 勤	52,902.32	16.68
志太基金株式会社	51,992.66	16.39
エスアンドエイ株式会社	48,001.46	15.13
株式会社シダ・セーフティ・サービス	33,778.00	10.65
志太スタジアム株式会社	21,769.26	6.86
志太 勤一	20,833.56	6.57
ザチースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	7,032.00	2.21
志太 正次郎	6,049.26	1.90
志太 富路	3,809.84	1.20
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	3,772.00	1.18

(注)当社は自己株式39,618.30株を保有しておりますが、上記には含めておりません。
なお、この株式数には8株の失念株が含まれており、当社の実質保有株式は39,610.30株であります。

所有者別株式分布 (平成16年3月31日現在)





株主優待のご案内

3月31日、9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主様に対し、それぞれ、以下の基準により、カラオケ店舗でご利用頂けるレストランカラオケ優待券を贈呈いたします。

- 贈呈基準 1株以上5株未満 → ルーム料金1,000円割引券15枚
 5株以上 → ルーム料金1,000円割引券45枚

- 利用方法 全国のレストランカラオケシダックスにて、ルーム料金の支払いとして、現金との併用又は、優待券のみでご利用いただけます。なお、5名様以下のご利用時は2枚まで、6名様以上のご利用時は利用枚数に制限はありません。

- 有効期限 3月31日現在株主様への優待券
 →発行された翌年の6月30日まで
 9月30日現在株主様への優待券
 →発行された翌年の12月31日まで

株主メモ

決算日	3月31日
定時株主総会	6月
配当株主確定日	3月31日 (ただし、中間配当を行う場合は、9月30日)
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
(連絡先)	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 03-3323-7111 (代表)
各種手続き用紙のご請求先	フリーダイヤル 0120-87-2031
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞	東京都において発行される日本経済新聞
貸借対照表および損益計算書掲載のホームページアドレス	http://www.shidax.co.jp/ir/koukoku/